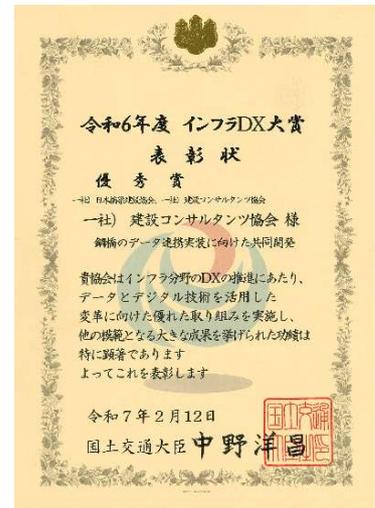


令和6年度インフラDX大賞「優秀賞」を受賞しました。

(一)日本橋梁建設協会との協働で進めている「鋼橋のデータ実装に向けた共同開発」が国土交通省主催の「令和6年度インフラDX大賞 i-Construction・インフラDX推進コンソーシアム会員の取組部門」において「優秀賞」を受賞しました。



インフラDX大賞は、インフラ分野において、データとデジタル技術を活用し、建設生産プロセスの高度化・効率化、国民サービスの向上等につながる優れた実績をベストプラクティスとして横展開するため国土交通省が実施している取り組みです。

対象は、インフラ分野において、データとデジタル技術を活用して、建設生産プロセスの高度化・効率化、国民サービスの向上、組織の働き方や文化・風土の改革等につながる優れた実績をあげた取り組みであり、「各団体が独自に実施した取り組み」として「i-Construction・インフラDX推進コンソーシアム会員の取組部門」で優秀賞を受賞しました。

受賞した共同開発の取り組みは、鋼橋において建設コンサルタントで実施している自動設計システムと、工場製作において活用している自動原寸システムをつなぐものとして、自動設計システムからのデータ連携を開発したものです。「鋼橋のデータ実装に向けた共同開発」として、(一)建設コンサルタンツ協会/生産性向上WGと(二)日本橋梁建設協会がデータ連携活用検討WGとして活動している取り組みです。

開発にあたっては、ベンダー各社（JIPテクノサイエンス（株）・（株）横河技術情報・（株）プロモテック 等）にもご協力頂きました。

今後も鋼橋データ連携の改善や更なる向上・発展に向け、共同開発を進めてまいります。

※「鋼橋のデータ実装に向けた共同開発」動画 ⇒

